



ぶどう作りへの思い

網 吉裕

聞き手・中村祐唯 芝田千夏（石川県立宝達高等学校2年）

自己紹介

私は、網吉裕です。昭和26年11月5日生まれ64歳です。家族構成は、母、私と女房、子ども2人です。長男は町内の役場に勤務しとるし、次男は神戸の造船会社で働いています。

きっかけ

子どもの頃は、親父の手伝いをよくしていました。ぶどうを出荷する時に入れる木箱を作るなどしてましたね。小中高大は夏休みになると収穫の手伝いをしていた記憶があります。会社に勤めていたときは、手伝いはあんましなかったですね。

ぶどう農家になったきっかけは、親父の病気ですね。親父が52歳のときに病気になり、母も親父に付き添わなきゃ

ダメになって、ぶどうの管理をできなくなって、そこから私は、分からないなりに本を読んだり、普及所の先生の力を借りたりして管理していったのが始まりでした。

網ぶどう園について

ぶどう園は、昭和26年ごろに私のおじいさんが川尻のぶどう農家の人にデラウェアを習い始めたのが始まりです。私で3代目ですね。今は、母と私と女房の3人で経営しています。

今のぶどう園の面積は、1.1ヘクタールです。畑は、いろいろな品種ごとに何等分かに分けて経営しています。この土地柄は砂丘地で、肥料がすーと流れていくんですよ。砂丘栽培は、甘いぶどうができるのでぶどう栽培には割と適した土地ですね。

ぶどうは、11品種ぐらい栽培しています。ルビーロマンはもちろん、デラウェア、大粒ぶどうではブラックオリンピ



時期	主な仕事	補足
2月下旬	ぶどうのハウスにビニルをかける	農薬を散布して消毒を施したり、水管理などはこまめに行っている
4月下旬 (ぶどうの花が満開になる頃)	粒が大きくなったら、種なしにする1回目のジベレリン処理* ↓少して… 初期摘粒 ↓10～14日後 玉を大きくする2回目のジベレリン処理	
満開から30日目	2回目の摘粒** (形がきれいになるようにする)	
満開から60日目	水回り (玉が割れていないかどうかの見回り)、 3回目の摘粒 600～800gのぶどうになるように仕上げ)	
満開から90日目	収穫 ↓ 農協からの検査 (糖度 180度かどうか、色はちゃんとしているか) ↓ 化粧箱に入れて出荷 (この作業は家族と協力して行う)	

*ジベレリン処理…ぶどうを種なしにする、ぶどうの粒を大きくするジベレリンの溶液にぶどうの花をひと房ひと房、浸していく作業のこと。

**摘粒…ぶどうの粒を間引く作業のこと。この作業をすることで、粒同士の間隔を広げ、一粒ひと粒が大きく育つ。

アヤシャインマスカットなどですかね。

それと、最近クィーンセブンっていう新しい品種も試しています。

直売所

平成元年から、直売を始めました。始めた当時は、農協に出荷し市場に出すのが当たり前だったので、組合のみんなからはたくさん言われました。けど、「俺はこれで飯を食べとるやろ」という強い意志で頑張りました。

始めてかって、徐々にお客さんも増えていきました。そうなるまでに、来てくれたお客さんに毎年案内を出したり、ホームページを開いたり、様々な努力をして広めていきました。

今は、色んな種類のぶどうが食べたい人のために詰め合わ

せセットを販売などして常連客も増えています。

ルビーロマン

ルビーロマンの特徴は、赤系の品種の中で粒が大きいこと、ものすごくジューシーであること、糖度が高くおいしいことです。今まで、ルビーロマンのように赤くて粒が大きい品種がなかったから、そこが一番の特徴ですかね。

うちでは、3段階に分けて栽培しています。ここ(上の表)では、一番段階が早く収穫するものについて紹介しますね。

今後

まず、ルビーロマンの商品化率を上げていきたいですね。現在の商品化率の県平均は38%(H26)なんです。理想は、



70%くらいまで上げていきたいね。そのためには、病気に弱いところなどの弱点を克服していきたいです。

ぶどうの商品化率が70%になったら、ぶどうの経営はやっていきそうで、そうすればおのずと後継者は育つんじゃないかなと思っています。

最後に

私は、お客さんに少し高くてもおいしいぶどうを提供したいと思っています。ただ形がいいぶどうではなくお客さんが納得するような、食べてくれた人が笑顔になってくれる、そんなぶどうを作っていきたいです。子どもたちが気に入ってくれたら素敵ですね。子どもが笑顔で「おいしい、おいしい」と食べてくれると、親は「またここのぶどうが食べたい」と思ってくれて、また買ってくれますからね。

ここ何十年かぶどうを作っているけど、まだ自分が納得できるぶどうが一度も作れていません。自分の理想とするぶどうに近づくようにこれからも精進していきたいです。

【取材日：2015年8月7日・10月3日】

PROFILE

網 吉裕 あみ きちゆう
昭和26年11月5日・64歳
ぶどう栽培

網ぶどう園代表。祖父が開いたぶどう園を3代目として継ぎ、ぶどう栽培の経験は約40年。宝達志水町の海岸の砂丘地帯はぶどうの栽培に適しており、約1.1haの圃場で11品種を栽培する。栽培技術を磨き高品質のぶどう生産に努めており、石川県開発の大粒種「ルビーロマン」をいち早く導入、羽咋ぶどう産地のリーダー的な存在である。



● 取材を終えての感想 ●

最初は戸惑うことばかりで、ちゃんとできるのかなと不安でした。沢山のの人に迷惑をかけて、苦労したことがたくさんありました。でも、2人で力を合わせて完成することが出来たことにホッとしました。この経験を通して、一回り大きくなったのではないかなと思います。これから、受験という大きな壁に向かって行きます。この経験で学んだことを生かして突き破れるように頑張っていきたいです。この「能登里山里海」の聞き書きでお世話になった方々に感謝したいです。(中村祐唯 写真：左)

このインタビューを通して自分がぶどうのことに关して今まで知らなかったことを知れて良かったです。ぶどうが出来るまでにたくさんのひと達が携わっていて、私たちが何気なく食べていたものがこんなにも苦労したり手間暇がかけていたりしていることが分かってとても良かったです。今回インタビューした網さんにはこれからも美味しいぶどうを頑張って作って欲しいと思いました。(芝田千夏 写真：右)

